

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100140		
法人名	医療法人社団 健昌会		
事業所名	ぐるーぷほーむ新里城栄 4階朗々		
所在地	長崎市城栄町11-2		
自己評価作成日	平成22年11月10日	評価結果市町村受理日	平成23年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成23年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業者が商店街の一角にあるという特色を活かし、ご入居者の要望に応じて個別に買い物や散歩に出かけています。商店街の方とも顔見知りとなり、声をかけてもらったりと馴染みの関係を築けています。また、年間外出行事の他に天気の良い日は手作り弁当を持って、公園や海などに出かけたりすることもあります。ご入居者の得意分野を最大限に引き出せるような環境づくりを心がけています。母体が医療施設である為、医療面でも安心して頂けるように主治医、看護師との協力体制を図っています。また、訪問診療で定期的な医師の往診を受け、充実した医療との連携のもと健康管理を行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型の事業所である。地域の商店街店主を対象に認知症サポーター養成講座を開き、更に次の講座を企画するなど、地域の認知症に対する正しい認識を広めるための積極的な活動は本事業所の特出すべき優れた点である。また、地域の行事に職員が積極的に参加し、自ら役立つことで事業所の認知度も上がっており地域との交流に繋がっている。運営推進会議の参加メンバーに商店街を含め地域の代表者が参加していることから地域の一員となった事業所の存在がわかる。また、看取りについての体制が整っており、看取り支援計画を作成し、全職員で取り組み、看取りから得るものの大きさ、最後まで自分の家にいることの重要性を理解し支援していることも優れているといえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	同法人のグループホームが作った理念を基本に、開設時に職員全員で独自の理念を考え作りました。毎日の朝の申し送り時に職員で唱和して共有し取り組んでいます。	職員は、グループホームの理念、ユニット毎の理念を毎日の唱和で再確認している。「ゆとりの心」を失わないよう職員相互で注意し、外出支援やレクリエーションなど「楽しむことを共に楽しむ」取り組みで理念の具現化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の時に年間行事を地域の方から教えて頂き、地域の行事などに積極的に参加しています。また商店街の一角があるので日常的に散歩や買い物など外出して交流しています。	事業所は自治会および商店街青年部に属し、餅つき大会、夏祭りの準備片づけ、出店の手伝い、職員による出し物など積極的に地域との交流を図っている。事業所の行事にも地域の方、幼稚園児の訪問があるなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を通じて情報発信をしています。又、ボランティアの受入も随時行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月に1度開催しており、参加者は地域の代表者、包括支援の方やご入居者の家族を交えてホームの活動や報告を行なっています。出席者の方々より助言や要望を頂き地域交流に繋げています。	運営推進会議は年6回、商店街理事長や他事業所管理者も含めた規定のメンバーが参加している。議題は行事の案内、活動報告などで行われているが、メンバーからの活発な提案や要望が少なく、サービス向上に向けた課題の検討にはつなげられていない。	会議では、サービス向上につながる有効な意見、アドバイスなどを多く聞き出し、反映させる工夫が望まれる。また、会議の中で家族の意見、希望も聞きだす取り組みにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議報告書を作成し包括支援センターの方より市役所に提出して頂いています。また、介護相談員の受け入れも行なっています。	今年度、市の商店街活性化事業の一環として地域の認知症サポーター養成講座への協力依頼があり、管理者が講師を引き受けている。その他包括支援センターを通しての報告など様々な形での協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命に関わる場合のみベッド柵やセンサーマットを必要とし、拘束しないケアに努めています。	身体拘束をしないケアの重要性はミーティングで周知徹底している。事故防止のため止むを得ない場合は家族の同意を得ている。言葉による拘束についても、自分の身に置き換え、禁止言葉ではなく、利用者が納得できる言葉を選ぶよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外の研修や勉強会に参加して、職員の意識向上に努めています。ご入居者一人ひとりの行動や身体の状態、言葉などに注意を払い観察し、問題や異常があれば話し合い対応するように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご入居者の中には成年後見制度を活用されている方もおり、関係する資料等を職員へ配布し勉強会にも出席しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には個室にて十分な時間をとり資料を用いながら分かり易い言葉で説明を行い、納得理解出来る様に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議ではご入居者、ご家族も出席して頂き、ご意見を伺っています。職員もご入居者、ご家族と積極的に話す機会を設け伺ったご意見、不満、苦情等はユニットミーティング時や適宜カンファレンスを開き改善策を話し合っています。	家族の面会時にお茶を出し、話しやすい雰囲気の中で意見や要望を聴き取るように努めている。洗濯物の仕分け間違いへの対応はゆっくりした時間に分類することとし、色落ちするものは別に洗うなど、要望は検討し改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員はミーティングや業務中に意見、提案が出た場合は管理者へ報告しています。又、管理者は個人面談などを行い、職員からの意見を聞く機会を設けています。	職員は管理者と年1回の個人面談の他、必要に応じて随時面談している。希望する休暇や資格取得についての個人的な相談にも対応している。またユニットミーティングは話しやすい雰囲気職員からの提案により乾燥機の修理など運営に反映する事例も多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員面談を行い、状況把握に努めています。また、職員一人ひとりの特性を見出し、役割を持ち意欲的に仕事ができる様に取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の勉強会に積極的に参加出来るよう案内を掲示しています。また現場で抱えている問題を勉強会担当者が勉強会協議の場で提議し、優先順位をつけ勉強会に取り入れています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員はGH連絡協議会の勉強会や交流会に参加させて頂いています。又、互いの運営推進会議に参加し、包括的なネットワーク作りやサービスの質を向上させていく取り組みを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始前には、ご本人に対する情報を集めて、アセスメントを行い本人やご家族の要望に応えられるように努めています。また暮らしの中でいつもと違う表情や変化があれば、落ち着いて話ができる所で伺えるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	挨拶や笑顔での対応などでご家族に気軽に話して頂ける関係や、環境づくりに取り組んでいます。またご家族の表情など注意を払い思いを感じとれるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームだけでなく、他事業所のサービス内容の説明を行い、ご本人・ご家族がその時に必要としているサービスの選択肢を広げる様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の要望としているものを知る為にも毎日の生活の中で小さな変化を見逃さない様に努め、それを職員全員で考え、共に支えあう関係を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の思いの中でご家族でしか満たされないことがある時は本人の状況、思いをご家族にお伝えし、ご家族と一緒に支える様努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣からご入居された方も多く、散歩や教会、商店街への買い物の機会を多く持ち人とのふれ合いを大切にしています。又、近所のなじみの店に買い物に行き、話をするなどして本人のなじみの関係が継続するよう努めています。	家族や親戚はもとより、友人や教え子、趣味の仲間の訪問も多く馴染みの関係が継続している。職員は近所の馴染みの美容室への送迎や日曜日に教会へ同行するなど行き慣れた場との関係継続の支援に努めている。また、利用者の希望を聞き、電話や手紙の支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、合同行事・ご入居者同士の会話などの機会を提供し、よりよい関係が築けるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当法人の診療所へ入院、施設に転居されている方もおられる為、時折ご入居者と職員が面会に行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者との会話の中から希望、意向、悩み等を伺ったり、ご家族より情報を収集し環境づくりに努めています。また意思疎通が困難な方は複数の意見の中から提供し、自己決定が出来るように本人本意で検討しています。	食後のゆったりした時間、居室で行うフットバスの時、一人で折り紙をしている時などに一対一で話せる場面を作り、意向を聴き取っている。発語困難な方は反応、表情などから汲み取り、難聴の方はジェスチャーや低いはっきりした声で話し、一人ひとりの思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人からアセスメントをとり、日常生活の会話の中でこれまであった様々な出来事を知ることが出来るよう努めています。また職員はアセスメント内容を把握し、会話対応に活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に合った過ごし方やその人らしい姿を把握出来る様に努めています。また記録物に記入し全職員が情報を共有できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時ご本人、ご家族に要望を伺いミーティング時に検討、意見交換の場を設け介護計画を作成しています。またプランの期間に応じてご入居者の状態変化や状況に応じて見直しを行っています。	家族の意見は訪問時に聞き取り、医師の意見は往診時に指示を受けた内容も含めてミーティングで職員が話し合い、計画作成担当者が作成している。計画は短期3ヶ月、長期6ヶ月で見直し、家族に説明し同意を得ている。個々の計画目標を日々支援できているかのチェックシートを活用し、次の計画作成につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には日々の様子、変化、健康状態、ご本人やご家族の言葉等を記録に残し全職員が把握できる様、情報を共有し見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かしてご入居者にとって負担となる受診に関しては訪問診療を活用しています。また、その時の状況に応じて、通院・送迎等も行ない対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署と連携を図り支援して頂ける様になっています。又、運営推進会議で地域の方々にご協力頂けるように取り組んでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に3～4回定期的な往診があります。必要に応じ、ご家族が診療に立ち会われています。かかりつけ医の継続は行っていますが、提携医療機関以外の医療機関を希望される場合は、原則としてご家族に対応して頂いています。	利用者・家族には利用開始時に提携医療機関及び医療体制を説明し同意を得ている。眼科、皮膚科、提携医療機関以外の受診は家族に依頼している。報告を受けた受診結果は、文書にして職員が共有し、かつ、主治医に渡している。夜間急変時にも医師に連絡可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護職は常に情報を共有し、24時間体制で主治医、看護師、介護職が対応できるような体制を作っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関と互いに情報の提供を行っています。又、定期的に面会し状況把握に努め、医療機関と相談をしながらご入居者、ご家族の意向を確認し速やかな退院に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	安心してサービスを受けられるよう職員は体調や病状の確認・急変時の対応連絡体制のマニュアルを作成しています。重度化や終末期の方針として見取りに関する指針を作成しており早い段階で話し合いの場を持つように取り組んでいます。	事業所の看取りに関する方針は契約時に文書で説明し同意を得ている。医師が看取り介護の必要性があると判断した場合、家族に説明し、看取り希望の場合は「看取り介護に関する計画書」を作成し、医師、看護師を含めたチームケアを開始する。現在までに3件、看取りの実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会に参加し、急変時に落ち着いて対応が出来るように訓練しています。又、緊急時対応マニュアルを作成しており、緊急時の対応が出来るようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い初期消火、通報、避難誘導を行っています。又、勉強会を開催し、知識を深めています。地域の方々へも運営推進会議にて訓練への参加を案内し、地域との協力体制に努めています。	消防訓練は年2回、夜間想定でも実施されている。積極的に地域へ働きかけた結果、今年度は地域の方の消火訓練への参加が実現している。全職員は消火器を扱うことができ、非常食、水、毛布などは法人本部が一括して備蓄・管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「人権と尊厳を守りましょう」と掲げている理念に基づき、言葉かけや対応は一人ひとりの誇りを損なわないように配慮しています。ご入居者に関わることは、ご入居者のいない所で申し送るようにし、プライバシーの保護に努めています。	利用者の尊厳を傷つけないよう、失禁やトイレ誘導にはさりげなく自然な対応を心がけている。個人情報書類は事務所キャビネットの中に保管しており、職員からは守秘義務誓約書をとっている。ただし、トイレのドアの開閉など日常支援において課題が残る。	利用者の尊厳を守るためにも、トイレ入室時のドア開閉、リハビリパンツなどの後処理など日常的な支援を全職員で検証し、改善していく取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の思いを尊重し、取り入れ、自己決定ができるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や要望に合わせ、出来る限りその方のペースを大事にしながら支援を行なっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1回来られる美容サービスを利用したり、家族の方に散髪して頂いています。又、お化粧をされる方と一緒に化粧品を選びに買い物に行かれたり、それぞれおしゃれが出来るように対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者が好む料理を提供出来る様、献立に取り入れています。食材刻み、盛り付け、味付け、後片付け等もご入居者と一緒に行い、同じテーブルで楽しく食事が出来る様に努めています。	食卓の高さが合わない利用者のために職員手作りの足台があり、優しい音楽が流れる中、ゆったり食事ができている。利用者は味付けのアドバイスなどできることを手伝っている。行事食には利用者の希望を取り入れ、外食は弁当持参でドライブしている。職員は利用者と一緒に食卓を囲み、介助しながら会話をして同じ物を食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に、体重測定を行い食べる量を個別で調整しています。又、食思低下の場合、補食として好きな物を摂って頂き栄養バランスが確保できるよう支援しています。水分量はお好きな飲み物を提供し水分の確保を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、誘導をしており、ご入居者の力に応じて職員が見守り、介助を行なっています。週に1回義歯の洗浄消毒を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを作成し、排泄パターンを把握して、本人の負担にならないようにトイレの声掛けや誘導を行ない、失敗が少なくなるよう自立に向けた支援を行なっています。	職員は排泄の自立の重要性を認識しており、昼間はトイレ誘導している。入居時にリハビリパンツ使用だった利用者が布パンツに改善した例もある。退院後の利用者には特にきめ細かなケアを行い排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートを作成し、排便状況を把握しています。排便コントロールが難しい方は、乳製品、繊維の多い食べ物や薬などで調整を行いコントロールが上手くいくように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご入居者の希望の時間帯や好むお湯加減を把握し、また入浴剤を使用するなどゆっくり入浴出来る様に支援しています。	入浴は木曜日以外の午前中としており希望があれば他の時間帯も可能である。同性介助で、入浴剤やゆず湯やしょうぶ湯など季節のお風呂で入浴を楽しむ工夫をしている。入浴を好まない方にはタイミングをずらして声をかけるなど個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠出来るように、なるべく日中の活動を促がし、生活のリズムを整えるよう努めています。又、一人ひとりのその日の体調や希望等を考慮し、日中も適度な休息が出来る様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬情報書を入れ、いつでも職員が確認できるようにしています。薬セットの際も、確認しながら行っており、薬変更があった際も必ず申し送り、記録にも残し全職員が把握出来るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特技や趣味を活かした、その方に合った作業や出来ることをお願いしたり、披露して頂き、その方のもっておられる力を活かし張り合いや喜びとなるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じて散歩や買い物へ行ったり、季節ごとに企画をたて行楽地に行ったりと戸外に出かけられるように支援しています。	日頃から近隣の商店街に散歩やパン、化粧品などの買い物に行くなどと個々の希望に添った外出を支援している。季節毎にランタン祭りや桜見物に出かけたり、時には利用者の希望で急遽、弁当持参でドライブに出かけることもあり、外出する意向を大切に支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より現金を預かり、事業所が管理している方でも、買い物の支払いの際はご自分で支払って頂けるように手渡し、支払って頂くなど支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者の希望に応じて、ご家族の協力を得ながら自宅へ電話をかけられるように支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁にご入居者の作品や季節感を感じられる作品を作り飾っています。入浴の際には色々な入浴剤を入れ楽しんで入ってもらえるように工夫しています。	共有空間は暖色系の照明で柔らかく暖かな雰囲気であり、利用者はソファやテーブルなど思い思いの場所でくつろいでいる。24時間換気システムで臭気もなく、職員が温度調節をしており、適温である。壁には利用者の季節の制作物が飾られ家庭的な雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルで貼り絵や折り紙をされたり、ソファではテレビを観たり洗濯物たたみ等をして過ごされています。一人ひとりが過ごしたい場所でゆっくり過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者が今まで使用してきた馴染みの家具などをご家族へ持って来て頂いています。また、外出時の写真やご家族の写真を居室に飾り、いつでも思い出せ、楽しい話が出来るように努めています。	居室には、家族の写真と共に鏡台、タンス、テレビ、椅子、仏壇など馴染みの家具や、趣味の編み物、折り紙、三味線などがあり、利用者ごとに個性のある空間となっている。掃除は毎日、できる利用者も共に行い、清潔で居心地のいい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間で転倒に繋がる原因がないかチェックして、身体機能の変化などの状態に応じて生活環境の改善に努めています。又、利用者にとって出来る事は自立出来るように支援しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100140		
法人名	医療法人社団 健昌会		
事業所名	ぐるーぷほーむ新里城栄 5階陽々		
所在地	長崎市城栄町11-2		
自己評価作成日	平成22年11月10日	評価結果市町村受理日	平成23年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成23年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業者が商店街の一角にあるという特色を活かし、ご入居者の要望に応じて個別に買い物や散歩に出かけています。商店街の方とも顔見知りとなり、声をかけてもらったりと馴染みの関係を築けています。また、年間外出行事の他に天気の良い日は手作り弁当を持って、公園や海などに出かけたりすることもあります。ご入居者の得意分野を最大限に引き出せるような環境づくりを心がけています。母体が医療施設である為、医療面でも安心して頂けるように主治医、看護師との協力体制を図っています。また、訪問診療で定期的な医師の往診を受け、充実した医療との連携のもと健康管理を行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	同法人のグループホームが作った理念を基本に、開設時に職員全員で独自の理念を考え作りました。毎日の朝の申し送り時に職員で唱和して共有し取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の時に年間行事を地域の方から教えて頂き、地域の行事などに積極的に参加しています。また商店街の一角にあるので日常的に散歩や買い物など外出して交流しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を通じて情報発信をしています。又、ボランティアの受入も随時行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月に1度開催しており、参加者は地域の代表者、包括支援の方やご入居者の家族を交えてホームの活動や報告を行なっています。出席者の方々より助言や要望を頂き地域交流に繋げています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議報告書を作成し包括支援センターの方より市役所に提出して頂いています。また、介護相談員の受け入れも行なっています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命に関わる場合のみベッド柵やセンサーマットを必要とし、拘束しないケアに努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外の研修や勉強会に参加して、職員の意識向上に努めています。ご入居者一人ひとりの行動や身体の状態、言葉などに注意を払い観察し、問題や異常があれば話し合い対応するように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご入居者の中には成年後見制度を活用されている方もおり、関係する資料等を職員へ配布し勉強会にも出席しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には個室にて十分な時間をとり資料を用いながら分かり易い言葉で説明を行い、納得理解出来る様に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議ではご入居者、ご家族も出席して頂き、ご意見を伺っています。職員もご入居者、ご家族と積極的に話す機会を設け伺ったご意見、不満、苦情等はユニットミーティング時や適宜カンファレンスを開き改善策を話し合っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員はミーティングや業務中に意見、提案が出た場合は管理者へ報告しています。又、管理者は個人面談などを行い、職員からの意見を聞く機会を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員面談を行い、状況把握に努めています。また、職員一人ひとりの特性を見出し、役割を持ち意欲的に仕事ができる様に取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の勉強会に積極的に参加出来るよう案内を掲示しています。また現場で抱えている問題を勉強会担当者が勉強会協議の場で提議し、優先順位をつけ勉強会に取り入れています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員はGH連絡協議会の勉強会や交流会に参加させて頂いています。又、互いの運営推進会議に参加し、包括的なネットワーク作りやサービスの質を向上させていく取り組みを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始前には、ご本人に対する情報を集めて、アセスメントを行い本人やご家族の要望に応えられるように努めています。また暮らしの中でいつもと違う表情や変化があれば、落ち着いて話が出来る所で伺えるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	挨拶や笑顔での対応などでご家族に気軽に話して頂ける関係や、環境づくりに取り組んでいます。またご家族の表情など注意を払い思いを感じとれるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームだけでなく、他事業所のサービス内容の説明を行い、ご本人・ご家族がその時に必要としているサービスの選択肢を広げる様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の要望としているものを知る為にも毎日の生活の中で小さな変化を見逃さない様に努め、それを職員全員で考え、共に支えあう関係を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の思いの中でご家族でしか満たされないことがある時は本人の状況、思いをご家族にお伝えし、ご家族と一緒に支える様努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣からご入居された方も多く、散歩や教会、商店街への買い物の機会を多く持ち人とのふれ合いを大切にしています。又、近所のなじみの店に買い物に行き、話をするなどして本人のなじみの関係が継続するよう努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、合同行事・ご入居者同士の会話などの機会を提供し、よりよい関係が築けるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当法人の診療所に入院、施設に転居されている方もおられる為、時折ご入居者と職員が面会に行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者との会話の中から希望、意向、悩み等を伺ったり、ご家族より情報を収集し環境づくりに努めています。また意思疎通が困難な方は複数の意見の中から提供し、自己決定が出来るように本人本意で検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人からアセスメントをとり、日常生活の会話の中でこれまであった様々な出来事を知ることが出来るよう努めています。また職員はアセスメント内容を把握し、会話対応に活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に合った過ごし方やその人らしい姿を把握出来る様に努めています。また記録物に記入し全職員が情報を共有できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時ご本人、ご家族に要望を伺いミーティング時に検討、意見交換の場を設け介護計画を作成しています。またプランの期間に応じてご入居者の状態変化や状況に応じて見直しを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には日々の様子、変化、健康状態、ご本人やご家族の言葉等を記録に残し全職員が把握できる様、情報を共有し見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かしてご入居者にとって負担となる受診に関しては訪問診療を活用しています。また、その時の状況に応じて、通院・送迎等も行ない対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署と連携を図り支援して頂ける様になっています。又、運営推進会議で地域の方々にご協力頂けるように取り組んでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に3～4回定期的な往診があります。必要に応じ、ご家族が診療に立ち会われています。かかりつけ医の継続は行っていますが、提携医療機関以外の医療機関を希望される場合は、原則としてご家族に対応して頂いています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護職は常に情報を共有し、24時間体制で主治医、看護師、介護職が対応できるような体制を作っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関と互いに情報の提供を行っています。又、定期的に面会し状況把握に努め、医療機関と相談をしながらご入居者、ご家族の意向を確認し速やかな退院に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	安心してサービスを受けられるよう職員は体調や病状の確認・急変時の対応連絡体制のマニュアルを作成しています。重度化や終末期の方針として見取りに関する指針を作成しており早い段階で話し合いの場を持つよう取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会に参加し、急変時に落ち着いて対応が出来るように訓練しています。又、緊急時対応マニュアルを作成しており、緊急時の対応が出来るようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い初期消火、通報、避難誘導を行っています。又、勉強会を開催し、知識を深めています。地域の方々へも運営推進会議にて訓練への参加を案内し、地域との協力体制に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「人権と尊厳を守りましょう」と掲げている理念に基づき、言葉かけや対応は一人ひとりの誇りを損なわないように配慮しています。ご入居者に関わることは、ご入居者のいない所で申し送るようにし、プライバシーの保護に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の思いを尊重し、取り入れ、自己決定ができるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や要望に合わせ、出来る限りその方のペースを大事にしながら支援を行なっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1回来られる美容サービスを利用したり、家族の方に散髪して頂いています。又、お化粧をされる方と一緒に化粧品を選びに買い物に行かれたり、それぞれおしゃれが出来るように対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者が好む料理を提供出来る様、献立に取り入れています。食材刻み、盛り付け、味付け、後片付け等もご入居者と一緒に行い、同じテーブルで楽しく食事が出来る様に努めています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に、体重測定を行い食べる量を個別で調整しています。又、食思低下の場合、補食として好きな物を摂って頂き栄養バランスが確保できるよう支援しています。水分量はお好きな飲み物を提供し水分の確保を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、誘導をしており、ご入居者の力に応じて職員が見守り、介助を行なっています。週に1回義歯の洗浄消毒を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを作成し、排泄パターンを把握して、本人の負担にならないようにトイレの声掛けや誘導を行ない、失敗が少なくなるよう自立に向けた支援を行なっています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートを作成し、排便状況を把握しています。排便コントロールが難しい方は、乳製品、繊維の多い食べ物や薬などで調整を行いコントロールが上手くいくように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご入居者の希望の時間帯や好むお湯加減を把握し、また入浴剤を使用するなどゆっくり入浴出来る様に支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠出来るように、なるべく日中の活動を促がし、生活のリズムを整えるよう努めています。又、一人ひとりのその日の体調や希望等を考慮し、日中も適度な休息が出来る様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬情報書を入れ、いつでも職員が確認できるようにしています。薬セットの際も、確認しながら行っており、薬変更があった際も必ず申し送り、記録にも残し全職員が把握出来るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特技や趣味を活かした、その方に合った作業や出来ることをお願いしたり、披露して頂き、その方のもっておられる力を活かし張り合いや喜びとなるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じて散歩や買い物へ行ったり、季節ごとに企画をたて行楽地に行ったりと戸外に出かけられるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より現金を預かり、事業所が管理している方でも、買い物の支払いの際はご自分で支払って頂けるように手渡し、支払って頂くなど支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者の希望に応じて、ご家族の協力を得ながら自宅へ電話をかけられるように支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁にご入居者の作品や季節感を感じられる作品を作り飾っています。入浴の際には色々な入浴剤を入れ楽しんで入ってもらえるように工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂テーブルで新聞折りをされたり、ソファではテレビを観たり洗濯物たたみ等をして過ごされています。冬になるとリビングのこたつで横になったり、一人ひとり過ごしたい場所でゆっくりとくつろがれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者が今まで使用してきた馴染みの家具などをご家族へ持って来て頂いています。また、外出時の写真やご家族の写真を居室に飾り、いつでも思い出せ、楽しい話が出来るように努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間で転倒に繋がる原因がないかチェックして、身体機能の変化などの状態に応じて生活環境の改善に努めています。又、利用者にとって出来る事は自立出来るように支援しています。		